



竹内 泰子 先生

### 略歴

歯科医師 日本歯周病学会専門医・指導医  
東京都世田谷区 竹内歯科クリニック（院長）  
東京都中央区 TOKYO歯周治療センター（副院長）  
一般社団法人こども成育協会口腔医学監修責任者

1980年 日本歯科大学卒業 矯正専門医勤務  
1982年 インプラント研究所勤務  
1985年 東京都世田谷区祖師谷にて開業  
1991年 スウェーデン・イエテボリ大学歯周病科留学  
1992年 帰国後自院にて開業継続  
2009年 日本歯周病学会専門医  
2012年 東京都中央区TOKYO歯周治療センター副院長（非常勤）  
2016年 日本歯周病学会専門医指導医  
現在に至る

2008年～ スイスデンタルアカデミージャパン（SDA）設立  
2010年～ ヤンリンデリサーチアカデミー（JLRA）設立

## GBT（Guided Biofilm Therapy）で臨床はどう変わる？

東京都開業  
竹内 泰子

歯周病の真実はこの半世紀で膨大な研究によって解明が進み、歯周病は治せる病気であることが実証され、歯周病罹患率の改善と予防へと進化している。しかし臨床ではいまだ旧態依然の治療様式に固執し、歯周健康の改善は遅々として進んでいない。過去十数年間にわたり日本では成人の歯周病罹患率が80%以上のものであるという実態が示されている。一方世界に目を向けると、先進国において歯周病罹患率は平均50-60%であり、20%という数字を示す国もある。また、歯周病の予防が可能であるという事実から、未病者の歯周病発症を抑えることに力を注いでいる。歯周病抑制に成果を上げている諸国では、歯周治療の原因と病態に関するコンセンサスを明確に示し、これに準じたシンプルな歯周治療を行なっていることが共通点である。このシンプルな歯周治療を具現化した器材こそがエアフロー（AIR-FLOW<sup>®</sup>、EMS社/松風社）であり、エリスリトールパウダー（AIR-FLOW<sup>®</sup> Powder PLUS、EMS社/松風社）である。近年は最大限の効果を短時間で得られる科学的根拠にもとづく治療プロトコルGBT（Guided Biofilm Therapy）という世界共通の治療手順も示されている。

GBT導入により、難しいと思っていた歯周治療が簡単に結果を出せて、患者自身がやる気になってくれるという現実を臨床で体験した。久しく来院が途絶えていた患者から「昔とずいぶん違う！」「こんなに簡単に治るなんて驚き！」という声を聞いたときには、長年AIR-FLOW<sup>®</sup>を使用していたにもかかわらず、使いこなせていなかったことに気づかされ、あらためてGBT導入効果を実感した。治療時間の短縮と治療効果は一見相反するようにみえるが、実は量的評価から質への転換の時代にあって当然のパラダイムシフトであり、臨床の現実的なシステム化が求められている。GBTを中心にする当院の臨床では歯科衛生士の経験だけに頼ることなく、新人でもキャリアのある歯科衛生士でも同様の効果が得られる。また、GBTを理解することによって、歯科医師自身が非外科的歯周治療の診方が変わり、歯科医師・歯科衛生士間の共感を実感することができる。つまりGBTが歯科医師と歯科衛生士のチームアプローチの決め手となる。

短い時間であるが、GBTの醍醐味をお伝えすることができれば幸いである。